

# 東京都心部におけるライブハウスの現状と今後

倉沢 篤史  
指導教員 八尾 廣  
建築設計計画 I 研究室

## 1. はじめに

### 1.1. 研究の背景と目的

近年流行している、新型コロナウイルス感染症が原因となり全国各地でのライブハウスの閉店や、イメージの低下が問題視されている。建築として焦点があてられることが少なかったライブハウスであるが、換気性能などの面から世間からの注目を受けることとなった。ライブハウスは建築基準法上の用途は飲食店である場合が多い。しかし、実際には劇場・映画館・演芸場と同等かあるいはそれ以上に観客密度の高い施設であり、その定義や建築形式は曖昧で資料も少ない。

以上のことからライブハウスの実態と、どのような計画がされているか、建築としての実態を明らかにすることを本論の目的とする。さらに、アフターコロナに向け、今後のライブハウスのあるべき姿についての考察も行う。

### 1.2. 研究方法

資料収集にあたっては、建築関連専門誌である新建築および商店建築のバックナンバーにてライブハウスの掲載事例を検索し情報を収集した。また、ライブハウスのウェブサイト掲載情報の収集も行った。建築雑誌への掲載事例は極めて少なかったため、ウェブサイトに掲載されている平面図については、その詳細度を問わず全て収集した。ライブハウスの名称、住所、配置階数、図面の有無を各ライブハウスのウェブサイトから、収容人数をウェブサイト「スーパーナイス」<sup>2)</sup> から収集し、一覧表を作成した。

収集したライブハウスの平面図については、地図情報等も参照し、縮尺を可能な限り特定した。これらの図面を参照し、ライブハウスにおける主要な構成要素の配置につき分析した。さらに、フロア面積あたりの観客密度を算定し、フロアの密集度についても把握した。

### 1.3. 研究対象

全国ライブハウスガイド<sup>1)</sup>によれば、東京都のライブハウス数は329あるが、本論においては対象を絞り、東京都の中でも最もライブハウス数が多い渋谷区、大規模なライブハウスがある江東区の2地域に絞り、これらの地域のライブハウスを研究の対象とすることとした。

渋谷区に関しては、利用頻度や利用者の数を考慮し、渋谷駅から徒歩10分圏内（駅を中心とする半径600mの円内）を対象の範囲とする。江東区については、区内のライブハウス全てを対象とした。

## 2. 調査結果

### 2.1. 渋谷区のライブハウス

対象地域内に点在するライブハウス数は20件あり、収

容人数は100～1300人と規模が多様であった。ウェブサイトから得られた図面は、利用者に向けた簡易なフロアマップを含めると15件であった。うち2件において断面図を得ることができた。

表1 渋谷区におけるライブハウス一覧

| ライブハウス名            | 住所                  | 配置階     | 収容人数 | 図面の有無 |
|--------------------|---------------------|---------|------|-------|
| 渋谷 Club quattro    | 宇田川町32-13-4         | 5       | 800  | △     |
| Duo MUSIC EXCHANGE | 道玄坂2-14-8           | 1       | 800  | ○     |
| Spotify O-EAST     | 道玄坂2-14-8           | 1, 2, 3 | 1300 | △     |
| Spotify O-Crest    | 道玄坂2-14-8           | 5       | 250  | △     |
| Spotify O-WEST     | 円山町2-3 O-WESTビル     | 1, 2, 3 | 600  | △     |
| Spotify O-NEST     | 円山町2-3 O-WESTビル     | 5, 6    | 250  | △     |
| 7th floor          | 円山町2-3 O-WESTビル     | 7       | 100  | ×     |
| 渋谷eggman           | 神南1-6-8             | 地下1     | 350  | ○     |
| 渋谷CYCLONE          | 宇田川町13-16 国際ビルA館    | 地下2     | 300  | ×     |
| GARRET utagawa     | 宇田川町13-16 国際ビルB館    | 地下1     | 300  | ×     |
| 渋谷WWW              | 宇田川町13-17 シネマライズビル  | 地下1     | 500  | ◎     |
| 渋谷WWW X            | 宇田川町13-18 シネマライズビル  | 2       | 500  | ◎     |
| SHIBUYA TAKE OFF 7 | 宇田川町32-12 アソルティ渋谷   | 地下1     | 200  | △     |
| 渋谷LA・mama          | 道玄坂1-15-3 プリメーラ道玄坂  | 地下1     | 300  | △     |
| 渋谷star lounge      | 宇田川町4-7 トウセン宇田川町ビル  | 1       | 250  | △     |
| 渋谷チェルシーホテル         | 宇田川町4-7 トウセン宇田川町ビル  | 地下1     | 300  | △     |
| 渋谷 the game        | 宇田川町4-7 トウセン宇田川町ビル  | 2       | 350  | ×     |
| Veats Shibuya      | 宇田川町33-1 グランド東京渋谷ビル | 地下1, 2  | 700  | ×     |
| 渋谷Club ASIA        | 円山町1-8              | 1       | 700  | △     |
| 渋谷GUILTY           | 道玄坂1-17-6 プロスペクト    | 地下1     | 250  | ○     |

### 2.2. 江東区のライブハウス

区内に存在するライブハウス数(ホールを含める)は6件。渋谷区とは対照的に収容人数が2000人を超えるライブハウスが多くを占めている。

表2 江東区におけるライブハウス一覧

| ライブハウス名           | 住所                    | 配置階 | 収容人数    | 図面の有無 |
|-------------------|-----------------------|-----|---------|-------|
| 新木場STUDIO COAST   | 東京都江東区新木場2-2-10       | 1   | 2402    | ○     |
| GARDEN 新木場FACTORY | 新木場2-8-2              | 1   | 280     | △     |
| Zepp DiverCity    | 青海1-1-10 ダイバーシティ東京プラザ | 地下1 | 2473    | △     |
| Zepp Tokyo        | 青海1-3-11              | 1   | 2709    | △     |
| 豊洲PIT             | 江東区豊洲6-1-23           | 1   | 3103    | △     |
| 東京ガーデンシアター        | 江東区有明2-1-6            | 1   | 8000(席) | ×     |

## 3. 計画における構成要素

広辞苑によれば、ライブハウスは「(和製語 live house) ポピュラー音楽の生演奏を聞かせる店。」と定義されている。目的はバンドやダンス、アイドルなどによる生のパフォーマンス見せ聴かせる場所である。しかし、建築的に求められる機能は曖昧なため、図面から共通してみられる構成要素を抽出した。

ライブパフォーマンスに必要な機能は4つある。楽器機材・照明機材等を設置した、演奏するための「ステージ」、可動式テーブル席を設置している事が多い、観客のための空間となる「フロア」。ミキシング等を行う音響機材を使用するための「PA ブース」、ステージに設置した照明機材をコントロールするための「LT ブース」である。これら2室は、機材は別々ではあるが1つのブースにまとめられていることが多い。

その他の機能は、「エントランス」「ホワイエ」「バーカウンター」「事務室」「倉庫」「トイレ」「楽屋」の7つが挙げられる。

以上の要素から、実際の平面図（図 1）と観客の同線とを照らし合わせつつ一般的なライブハウスのダイアグラム（図 2）を作成した。

図 1 渋谷クラブクアトロ 平面図

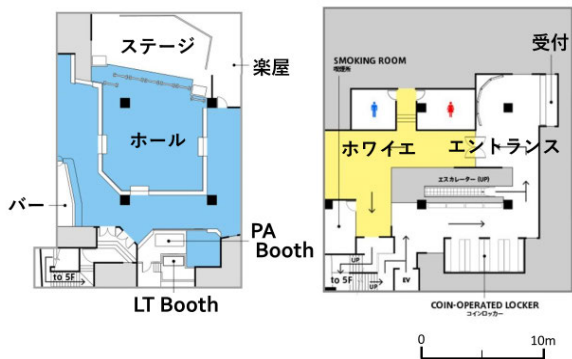
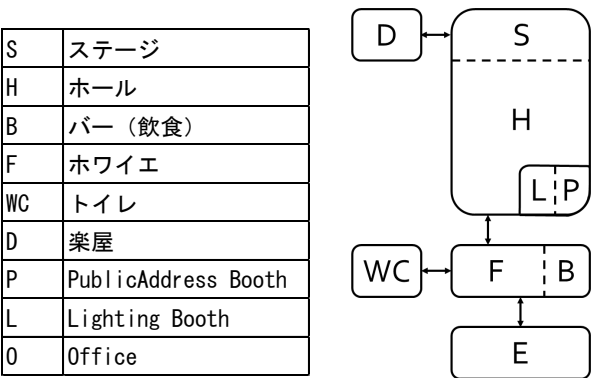


図 2 一般的なライブハウスのダイアグラム

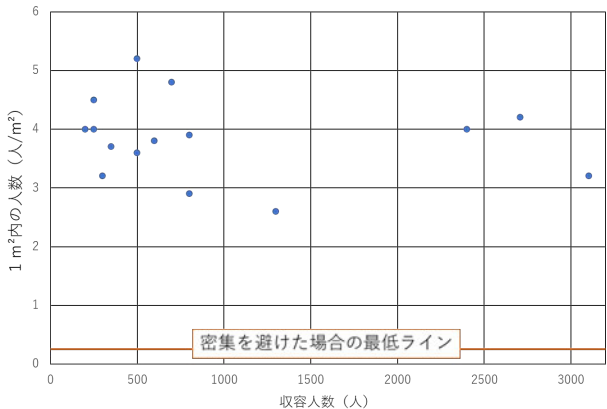


4. ライブハウスの観客密度

新型コロナウイルスの感染拡大に直面し、ライブハウスにおいては3密「密閉・密集・密接」を避けられないという問題が浮上した。ライブハウスには遮音性と吸音性が求められるため、内と外を明確に区分する閉鎖的な設計となっている。また、スタンディングでの鑑賞が主なため観客が密集しコミュニケーションを取りやすい。これらの条件が3密の原因となる条件と一致するためにパンデミックに弱い施設となったのだろう。

「フロア」における観客密度を把握するため、研究対象における、収容人数をフロア面積で除した「1m<sup>2</sup>あたりの観客数」を算出し、収容人数との相関による散布グラフを作成した（図 3）。密を避ける一般的な基準離隔距離は2mであるが、観客がこの離隔距離をとった場合、1m<sup>2</sup>あたりの観客数は 0.25 となる。東京都感染拡大防止ガイドブック<sup>3)</sup>では会場定員の 50%以下を目安としているが、散布図を見る限り、この基準では到底密を避けられない。

図 3 フロア面積あたりの観客数



上記検証より、現状のライブハウスでは三密を避けて営業を継続することは極めて困難であり、今後新たな形態を模索する必要があることがわかった。

5.まとめ

収集した平面図を参照すると、延べ床面積が小さくキャパシティの少ないライブハウスでは、ライブハウスの収益源であるフロア面積の確保のため、必要な他の諸機能の床面積を削られているケースが多く見られた。また、規模の大きいライブハウスでは、ライブスケジュールが入っていない日にはその広い空間がわざわざ、ほかの用途でうまく生かされ切れていないのが現状だ。

ステージ・フロアと並んだ設計ばかりが行われている事が収集した図面から読み取れたが、ステージを囲むような設計がされても良いに感じた。

このような状況下でのパンデミックは、ライブハウスに多大な悪影響を及ぼしたのはいうまでもない。どのスケールのライブハウスに対しても、アフターコロナに向け改善の余地があるだろう。

6.考察

コロナ禍においても、ライブハウスは定員数をコントロールしつつ、本来の収益を得なくてはならない。そのためにも、アフターコロナを視野に入れたうえで、今一番有力なのは有観客ライブを行うと同時にウェブ配信を併用するなどその形態を変化させる必要があるだろう。生演奏を披露する場であるとともに、ウェブ配信を利用し世界中に日本の音楽カルチャーを広める拠点として、今後ライブハウスは新たな役割を担っていくことが重要視されると考える。

参考文献

1) 全国ライブハウスガイド（2022年1月）  
<https://livehouseguide.hatenablog.com/>  
2) スーパーナイスライブハウス（2022年1月）  
<https://super-nice.net/>  
3) 東京都感染拡大防止ガイドブック（2022年1月）  
[https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/\\_res/projects/default\\_project/\\_page\\_/01/008/459/0625-27.pdf](https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/_res/projects/default_project/_page_/01/008/459/0625-27.pdf)